

第2次おおい町未来創生戦略

“若さ” つなぐ “響き合う” 未来をつかむおおい町

事業評価の結果について

令和6年12月

おおい町

1 おおい町未来創生戦略と事業評価について

「第2次おおい町未来創生戦略」は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」であり、上位計画である「第2次おおい町総合計画」との整合を図りつつ、長期的な視点に立ち、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたり活力ある地域社会を実現するため、「子育て」「若者仕事」「若者活力」「活力生活」「発信強化」の5つの戦略に基づき施策を展開していくものです。

計画期間は、2020（令和2）年度から2024（令和6）年度までの5年間となっており、各戦略について、令和6年度を目標年度としたKPI（Key Performance Indicator（重要業績評価指標））と実行計画（アクションプラン）を設定し、いわゆるPDCAサイクルによる進捗状況の確認と効果の検証を行い、実効性を高めることとしております。

2 事業評価の進め方について

未来創生戦略の令和5年度実績について、以下のとおり評価を行いました。

（1）自己点検（各事業担当課が事業評価シートを作成）

- ・ 数値目標の達成状況、成果・課題などを記載

（2）内部評価（まちづくり課（未来創生戦略担当課）によるヒアリング）

- ・ 進捗状況、課題、数値目標等について、確認及び問題意識を共有

（3）外部評価（外部評価委員会による意見聴取）

- ・ 学識者、有識者および住民代表から構成される委員会において、事業の進捗状況を踏まえた課題や対応策等について議論

（4）評価結果の公表

- ・ 事業評価シート及び外部評価委員会の結果を町のホームページで公表

なお、外部評価委員会では、令和5年度に国の物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金及び新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して実施した事業についてもご意見をお伺いしております。

3 外部評価委員会における委員からの意見等について

令和6年11月5日（火）に開催した「令和6年度 第1回 第3次おおい町未来創生戦略策定評価委員会」において、委員の皆さまから、第2次おおい町未来創生戦略の事業実施状況に関して、主に以下のご意見・ご指摘をいただきました。

- 「住宅取得等支援事業」について

大きな予算が投じられているが、事業の内容と KPI 達成の中身について説明してほしい。

⇒事業の内容は、住宅の取得やリフォームにかかる費用を助成するもので、6つのメニューがある (<http://www.town.ohi.fukui.jp/object/object05/p19821.html>)。

KPI 達成の中身については、各メニューの助成実績を本事業の事業評価シートに記載しており、令和2年度から令和5年度までの4年間で合計100件の助成を行った。助成件数が伸びたのは、近年民間事業者が町内各地で分譲を行っており、住宅を新築等される方が増えていることから、住宅取得等にかかる支援を希望される方が多かつたためだと考えている。

- 「子育て世代に優しい町PR事業」について

町内にはいろいろな施設があるが雨天時には使えない施設もある。例えばきのこの森が雨で使えないときにこども家族館はどうなのかとか、入場者数の関係を精査して目標値を見直してみてもどうか。

- 「産業団地造成事業」について

複数の企業が興味を持って来町しているものの誘致に至っていないのは、町側が企業とマッチしないのか、それとも企業側の条件が合わないのか。町としてどのような企業に来てほしいという要望はあるのか。

⇒目標値の4区画の内、1区画は誘致企業が決まった。その他何社かと条件のやりとりをしている状況である。人口減少に歯止めをかけ、若者のUターンを促進するという町の目標があり、高校まで町内にいた子どもは県外の大学等に行ってしまうので、卒業後、就職で戻って来ようと思うような企業に来てもらいたい。また、雇用人数も重要となる。おおい町は電気料金が全国トップクラスで安いという売りがあるので、電気を多く使う製造業等が町の希望である。

- 「産業団地造成事業」について

企業が入ったとしても、倉庫なら雇用人数は少なくなるので、本来の数値目標とは別に雇用人数をサブ目標に付け加えてはどうか。

- 「おおいサポーター登録・情報発信事業」について

どのような方がサポーターになっているのか。

⇒令和6年10月末時点のおおいサポーター登録者は247名で、まちづくりアイデアコンテストに参加した大学生（95名）、一次産業体験者（38名）、同窓会の参加者（30名）、町での調査研究活動を行った大学生（28名）、ホームページを見て登録した方（16名）などである。まちづくりアイデアコンテストに参加した大学生70名や、一次産業体験者23名の登録があったため、今年度に入ってからサポーターが90名以上増えた。

● 「ふるさと体験事業」について

交通費助成の支給状況を教えてほしい。1人何回でも助成を受けられるのか？

⇒支給状況は以下のとおりであり、何回でも助成を受けられる。

年度	補助対象活動	支給者数 (人・のべ)	支給額 (円)
R2	調査研究	13	32,209
	一産業体験	5	25,000
	小計	18	57,209
R3	調査研究	9	38,250
R4	支給実績なし		
R5	調査研究	27	135,000
	イベントボランティア	1	5,000
	小計	28	140,000
R6 (10月末まで)	一次産業体験	73	377,300
	調査研究	3	9,640
	小計	76	386,940
合計		131	622,399

● 「スポーツ・教育合宿推進事業」について

施設が充実しているにも関わらず、KPIが達成できなかったのはもったいない。これからもっとアピールしてほしい。

● 「まちづくり団体・集落ぐるみチャレンジ応援事業」について

令和6年度の予算額が令和5年度の実績額より大幅に増加しているが、資料内ではその理由が読み取れないので、どのような計画で増加したのか教えてほしい。

⇒この事業は町内全63集落の自主活動を支援する事業であるが、コロナ禍で行き届かなくなったコミュニティ活動を再開してもらうメニューを作った。実際に利用している集落は一定程度だが、なるべく各集落の活動を促進させるために、手続きや募集の仕方、活動時期も含め、幅広に対応して使い勝手のいい制度にしていきたい。活用してもらうことによって地域のコミュニティがより深まると考えているので、しっかりと活用できるようにしていきたいと考えている。

- 「一次産業体験事業」について

担当課が農林水産課になっているが、宿泊して滞在する人もいる中、町内には民間や公共の宿泊施設がいろいろあるので、担当課を1つに決めず、商工観光課と連携して取り組めば、もう少し幅の広い経済効果が出てくると思う。

- その他

- ・ KPI の設定は大切であり、金額にするのか、人数にするのか次の戦略では細かく検討したほうがよい。
- ・ 子育てに関する施策は充実しており子どもが遊べる場所も多くあるが、子どもだけで遊べる場所は難しく、公園も充実していない。今後、子どもが安心・安全に遊べるようにサポートを考えていかないといけない。
- ・ 子育て支援は充実しているが、それは子どもがいる人が前提となっている。子どもを産まない女性、産みたくても産めない女性もいるので、そういった女性への支援も考えてほしい。
- ・ 東京から来た委員もいる中、町内での宿泊場所が見つげにくいということがあったと思うので、今後の課題にしてほしい。

【第3次おおい町未来創生戦略策定評価委員会 委員名簿】

当日の議事進行により、佐々井 司 氏を委員長に選出いたしました。

	所 属 等	氏 名
学 識 ・ 有 識 者	福井県立大学地域経済研究所 教授	佐々井 司
	福井県立大学経済学部 助教	芝田 有希
	独立行政法人労働政策研究・研修機構 主任研究員	高見 具広
	一般財団法人地域総合整備財団 地域再生課長	原 淳一郎
住 民	おおい町区長連絡協議会 会長	柿本 浩一
	Gruppo 代表、おおい町教育委員	谷口 千裕
	株式会社青戸ベイサイドヒルズ 代表取締役	西本 絵里
	おおい町婦人福祉協議会 会長	早川 はつみ

(敬称略)